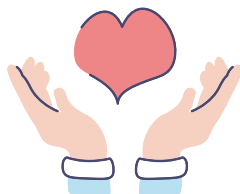


急な病気やけがに備える



子どもの救急 ハンドブック

こんな時に
ご活用ください。



子どもが急に病気やけがをした！

- ・ 病院へ行くべきか迷う場合
- ・ 自宅での看病が不安な場合
- ・ 夜間受診の目安を知りたい場合
- ・ とにかく急な出来事でどうしたらいいかわからない場合

---→ 目次

大切なこと

- はじめに P1
- 医療機関の上手なかかり方 P2
- 救急車の利用方法 P3

急病のとき

- 1.発熱 P5
- 2.けいれん P6
- 3.咳・ゼーゼー P7
- 4.吐いた P8
- 5.下痢 P9
- 6.お腹が痛い P10
- 7.発疹が出た P11
- 8.耳が痛い P12
- 9.熱中症 P13

事故やけがのとき

- 10.頭を打った P15
- 11.誤飲した P16
- 12.鼻血 P17
- 13.やけど P18
- 14.動物に咬(噛)まれた P19

その他

- 15.泣き止まない P21
 - 16.ミルクを飲まない P22
- よくある相談 P23
 - 相談窓口について P24

---→ はじめに

子どもは、大人と比べて体調の変化が急で、ちょっとしたきっかけでも症状が大きく出ることがあります。

昨日まで元気だったのに、急に熱が出る、夜中に咳が止まらなくなる、突然ぐったりして元気がなくなる。

そんな場面に直面すると、保護者は強い不安を感じ、どう行動すればよいのか迷ってしまうことも少なくありません。

「様子を見ても大丈夫なのだろうか」「今すぐ病院を受診したほうがいいのだろうか」

「夜間や休日でも相談できる場所はあるのだろうか」

このような迷いや不安は子どもを大切に思うからこそ生まれる、ごく自然な気持です。

この「子どもの救急ハンドブック」は、そうした場面で保護者が落ち着いて状況を整理し、次の行動を考えるための道しるべとして作成しました。

本書では、子どもに多くみられる症状について取り上げています。
それぞれの症状ごとに、

受診を考えるタイミング すぐに対応が必要な危険なサイン 自宅での対処方法

を、できるだけわかりやすい言葉でまとめています。

本書は診断や治療を行うものではありませんが、迷ったときに状況を整理し、次の行動を考えるためのヒントとなることを目的としています。

「いつもと違う」と感じる保護者の直感は、とても大切です。不安が強い場合は、ためらわず医療機関や相談窓口をご利用ください。

---> 医療機関の上手なかかり方

かかりつけ医は決めておきましょう

「かかりつけ医」とは、子どもの病気や予防接種、育児など気軽に相談できるお医者さんのことです。子どもの具合が悪くなった時も安心です。必要な場合は適切な病院やお医者さんを紹介してもらうこともできます。子どもの様子がいつもと違う場合や体調がおかしいと思ったら、早めにかかりつけ医に診てもらいましょう。



観察ポイント



いつもより食欲がない



夜中に泣いて目が覚める



元気がなく顔色が悪い



親から離れず機嫌が悪い
(ぐずる)



目やにがある、目が赤い



きっかけがないのに吐いた
便がいつもと違う

子どもの異変を感じたらすぐにかかりつけ医へ受診へ行きましょう。
受診をしていいのか判断に悩んだら迷わず「#8000」へご相談ください。

救急車の利用方法

救急車は、緊急を要する重症な人を搬送するための車です。

落ち着いて、救急車が必要かどうか冷静に判断しましょう。

1. 局番なしの「119」に電話する
2. 下記のフローに沿って情報を正確に伝える
3. 周囲に手伝ってもらいながら、サイレンが聞こえたらできるだけ誘導する
4. 救急隊員に状況を詳しく伝える
 - ・ 電話をしてから到着までの状態の変化
 - ・ 行った応急手当の内容
 - ・ 持病がある場合は、その病名とかかりつけ医と主治医名



消防本部



相談者

はい、〇〇消防です
火事ですか？ 救急ですか？

救急です

住所はどちらですか？

〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号
〇〇アパート〇〇号室です

どうされましたか？

〇〇才の男の子が〇分前から
けいれんしています

あなたの名前と連絡先を
教えてください

名前は〇〇 〇〇です
電話番号は、〇〇〇-〇〇〇〇です

ポイント

- ・ 救急であることを伝える
- ・ 住所と目印になるもの、いつ、どこで、何歳の子供が、どうしたのか、今どんな状態なのかを簡潔に伝え、自分の名前、連絡先を正確に伝える

その他、詳しい状況、持病、かかりつけ病院等について尋ねられることがあります。答えられる範囲で伝えてください。

※上記に示したものは一般的な聞き取り内容です。

※119番では、出血していれば止血、呼びかけに応じず呼吸が無ければ、心肺蘇生法（心臓マッサージ等）などの応急手当を指導するので、その指示に従って積極的に実施してください。



急病のとき

----→ 発熱



発熱とは

発熱とは37.5℃以上の状態です。子どもの発熱の原因の多くはウイルスや細菌などの感染によるものです。ウイルスなどの病原体は熱に対して弱く、逆に子どもの体は熱が出るとウイルスや細菌と戦う力が増します。熱が出るということは感染にかかった信号であり、体が正常に反応していることを示しています。病気が治るにつれて発熱しなくなります。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 水分をとれていない
- ☐ 何度も吐いて食欲がない
- ☐ おしっこが出ない
- ☐ ぐっすり眠ることができず
機嫌が悪い



観察のポイント



元気があるか、ぐったりしていないか、全身の状態も観察してください



経過をみるため、朝昼夕3回は体温を測りましょう



こんな時は**119番** 
意識がもうろうとしている・興奮している など

ご自宅での対処方法

- 熱の出始めは手足が冷たく、寒気がして震えることがあります。寒がるときは、暖かくしましょう。暑がるようになったら、子どもが楽に感じる程度に冷やしましょう。
- 汗をかいていたら、汗を拭いてこまめに着替えさせましょう。
- 水分は普段より少し多めに、こまめに与えましょう。
- 元気そうなら、解熱剤は使わなくてもかまいません。

----> けいれん



けいれんとは

脳のはたらきが一時的に乱れることで、体が自分の意思とは関係なく動いてしまう状態のことです。突然手足がガクガクしたり、体が固くなったり、呼びかけに反応しなくなったりすることがあります。多くの場合、数分で自然におさまります。熱が出たときに起こる「熱性けいれん」は、乳幼児によくみられ、成長とともに起こらなくなるのがほとんどです。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 5分以上けいれんが続く
- ☐ 初めてのけいれん
- ☐ 何度も繰り返す
- ☐ 興奮している・暴れている
- ☐ 激しい頭痛・ぐったりしている



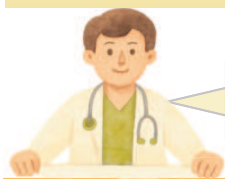
観察のポイント



けいれんの始まり～終わりまでの時間を測ってください



けいれんをしているときの様子を動画でととりましょう



こんな時は**119番** 
意識が戻らない・止まっても、すぐに起こる など

ご自宅での対処方法

初めてけいれんを起こしたときは、とても驚き、不安になると思います。
適切に対処することで、子どもの安全を確保しましょう。

- 慌てず、身の回りの安全が確保できるところで寝かせましょう。
- 顔を横向きにして、吐いたものを詰まらせないようにしましょう。
- 口の中にはものを入れないように注意しましょう。



---→ 咳・ぜーぜー

咳・ぜーぜーとは

咳は、のどや気管に入った異物やたんを外に出そうとする、体のはたらきです。「ぜーぜー」という音は、空気の通り道（気道）が狭くなっているときに聞こえる呼吸音です。かぜやぜんそく、アレルギーなどが原因で起こり、小さな子どもは気道が細いため、音が出やすくなります。軽い場合は、安静にして様子を見ることで改善することもあります。呼吸が苦しそうな場合は注意が必要です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 呼吸が早い
- ☐ 肩や胸を大きく動かしている
- ☐ ぜーぜーが強く、息が苦しそう
- ☐ 胸を痛がる
- ☐ 咳で吐いてしまう



観察のポイント



息をするときに 苦しそうな表情がないか確認しましょう



元気があるか、ぐったりしていないか、全身の状態も観察しましょう



こんな時は**119番** 
苦しそうで話せない・顔や唇の色が紫 など

ご自宅での対処方法

- 上半身を少し起こしたり、抱っこやクッションで呼吸がしやすい姿勢をとしましょう。
- 室温は暑すぎず寒すぎずに保ち、しっかりと加湿しましょう。
(乾燥は咳を悪化させます)
- のどがうるおうことで、咳が和らぐことがあります。
水分がとれるようであれば、少量ずつ水分をあげましょう。

----→ 吐いた



吐いたとは

嘔吐（おうと）は、胃の中のものを体の外に出そうとする体の反応です。ウイルス性胃腸炎（いわゆる胃腸かぜ）をはじめ、食べ過ぎ、咳き込み、発熱、緊張など、さまざまな原因で起こります。

多くの場合は一時的で、時間とともにおさまりますが、脱水には注意が必要です。嘔吐後の水分補給のタイミングも大切ですので覚えておきましょう。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう

かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 38℃以上の発熱がある
- ☐ 水分を飲んでも吐いてしまう
- ☐ 半日以上おしっこが出ない
- ☐ 血や緑色のものを吐いた
- ☐ 繰り返し吐く・元気がない



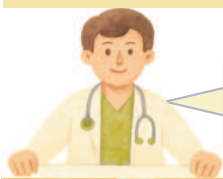
観察のポイント



何回吐いたか、回数が増えていないか確認しましょう



噴水のように勢いよく吐いているか、吐いた後、楽そうになるか、様子も確認しましょう



こんな時は**119番** 
ぐったりしている・便に血が混ざる など

ご自宅での対処方法

- 無理に飲ませず（30分ほど胃を休ませる）、顔を横向きにして、吐いたものを詰まらせないようにしましょう。
- 落ち着いてきたら、少量ずつ・こまめに（スプーン1杯、5～10分おきなど）水分を飲ませましょう。
- 無理に食べさせないで食べられるようになったら、消化のよいものから少しずつ食べさせましょう。



---→ 下痢

下痢とは

下痢は、便がやわらかくなったり、水のようになったりする状態です。ウイルス性胃腸炎（いわゆる胃腸かぜ）が原因として多く、そのほかにも食事内容の変化、冷え、抗菌薬の影響などで起こることがあります。自然に改善することがほとんどですが、脱水などの症状に注意が必要です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 元気がなく、ぐったりしている
- ☐ 繰り返し吐き、水分がとれない
- ☐ 泣き叫ぶほどの腹痛がある
- ☐ 半日以上おしっこが出ない
- ☐ 頻回に下痢が続いている



観察のポイント



おしっこの回数が少なく、泣いても涙が出ない、唇が乾いているなどのときは、脱水症状のサインのため、注意しましょう



こんな時は**119番** 
便にたくさんの血やイチゴゼリーの様なものが混ざる、など

ご自宅での対処方法

- 脂っこい物・甘い飲み物は控え、消化に良い物から食べさせましょう。
- 便のあとには、おしりをやさしく洗い、拭いて清潔にしましょう。必要に応じて保湿剤やおしり用の軟膏を使用しましょう。
- お腹を冷やさないように衣類を被せて、しっかりと休ませましょう。
- 飲めるようなら、少しずつ水分をすすめて脱水予防に努めましょう。



----> お腹が痛い

お腹が痛いとは

子どもの腹痛はとてもよくある症状で、成長の過程や日常生活の中でも起こりやすいものです。原因はひとつとは限らず、いくつか重なって起こることもあります。よくある原因としては、胃腸炎などの感染症、便秘、食べ過ぎや冷え、ストレスや緊張などがあります。「いつもと違う」「様子がおかしい」と感じたときは、無理に様子を見続けず、医療機関に相談することが大切です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 痛みが どんどん強くなる
- ☐ 右下腹を特に強く痛がる
- ☐ 発熱・嘔吐を伴う
- ☐ 歩くのもつらい
- ☐ 8時間以上うとうとしている



観察のポイント



右下腹の痛みは虫垂炎(いわゆる盲腸)の可能性があるので、確認しましょう



いつから痛いか、だんだん強くなっていないか、腹痛の波の有無を確認しましょう



こんな時は119番



ぐったりしている・お腹がパンパンに張っている、
おまた(股の付け根、陰囊)が膨らんでいる など

ご自宅での対処方法

- 痛みが強いときに動くと、症状が悪化することがあります。無理に動かさず、楽な姿勢で休みましょう。横になる場合は、膝を軽く曲げると痛みが和らぐことがあります。
- 冷えや緊張、便秘が原因と思われる場合はタオルやカイロでやさしく温めましょう。

(※発熱がある・押すと強く痛がる・右下腹の痛みが強い場合は温めることは禁止です)



----> 発疹が出た

発疹が出たとは

発疹（ほっしん）とは、皮ふに赤み、ぶつぶつ、はんてん、水ぶくれ、かさつきなどが現れる状態をいいます。子どもは皮ふがデリケートなため、大人よりも発疹が出やすく、目立ちやすい特徴があります。自宅でのスキンケアと経過観察で対応できることも少なくありませんが、ウイルスや細菌などの感染症、アレルギー反応の恐れもあるため注意が必要です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう

かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 発疹が 急に全身に広がる
- ☐ 何か食べ飲みした後に出現した
- ☐ かゆみが強く眠れない
- ☐ かぜのような症状がある
(熱や咳 等)
- ☐ 舌にイチゴのようなザラザラ
がある



観察のポイント



体のどこに出ているか
(顔・体・手足など)



赤み、ぶつぶつ、水ぶくれ、
かさかさなど 形の違いや
かゆみも観察しましょう



こんな時は**119番**



呼吸が苦しい・ぐったりしている・目の周りや顔面がひどく腫れている など

ご自宅での対処方法

- ゴシゴシこすらず、汗や汚れをやさしく洗い流して皮ふを清潔に保ちましょう。
- かゆみがあってもかかないように注意して、乾燥している場合は保湿しましょう。
- かゆみが強い場合は、冷タオルで軽く冷やしてあげる等、強い刺激を与えないようにしましょう。

----→耳が痛い



耳が痛いとは

子どもの耳の痛みは、中耳炎が最も多い原因です。

鼻水が出ると、耳と鼻をつなぐ管（耳管）がつまり、耳の中で炎症が起き、水・膿がたまることで痛みが出ます。ほかにも、外耳炎（耳の入り口の炎症）、耳あかの詰まり、強く鼻をかんだ、などでも耳が痛くなることがあります。耳の痛みは、夜に強くなることも多く、子どもが急に泣いて訴えることがあります。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう

かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

☐ 痛みがとても強い・続いている
→乳幼児：原因不明で泣き続ける

☐ 高熱を伴う

☐ 耳の周りが腫れている

☐ 耳をけがした・何か入った



観察のポイント



片耳か両耳か、夜間や横になると痛みが強くないか



耳だれ（黄色や白い液）や、鼻水・咳など、かぜ症状も観察しましょう



ご自宅での対処方法

- 夜間に痛がる場合は、上半身を少し起こして寝かせると楽になることがあります。まずは安静にして静かな場所で休みましょう。
- 鼻水が出ている場合は、こまめに鼻水をかみ、強くかみすぎないように注意しましょう。
- 温まると痛みが増すことがあるため、入浴は短時間にし、耳に水を入れないよう気をつけましょう。綿棒・ティッシュ・指を耳の中に入れないようにしてください。

----→熱中症



熱中症とは

高温・多湿の環境で体温調整ができていないと、体に熱がこもり、脳や肺・心臓などがダメージを受けているため、正しく対処しなければ死に至ることがあります。

体が熱く、真っ赤な顔をしているときや、暑いのに汗をかかないときは注意し、すぐ対処しましょう。特に乳幼児までは体温を調整する体のはたらきが未熟で、地面に近く熱を受けやすいので、保護者がこまめに体温管理をしましょう。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう

かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ ぼんやりしている
- ☐ 汗がひどく多い/暑いのに汗をかかない（皮ふが乾いている）
- ☐ 頭痛やめまいがある
- ☐ 嘔吐を繰り返す/吐き気が続く
- ☐ あくびを繰り返す



観察のポイント



症状の悪化はないか？

急激な体温上昇が続いていないか？



症状がおさまるまでは顔色や意識の確認は常に必要ですので近くにいきましょう。



こんな時は**119番** 
意識がおかしい・ふらついている など

ご自宅での対処方法

- 気づいたら、すぐに冷房の効いた屋内や日陰などの涼しい場所に移動しましょう。
- 衣類を緩め、首筋・脇などをタオルで保護した保冷剤や氷水で冷やしましょう。冷やし方のポイントとして体全体を濡れタオルなどで冷やし、うちわなどで風を送ると熱を逃がしやすいです。
- 水分だけでなく、塩分もバランスよく摂ることが大切ですので、できるだけイオン飲料を飲ませましょう。0歳児は母乳やミルクでよいでしょう。



事故やけがのとき



→頭を打った

頭部外傷とは

子どもは月齢が小さいほど頭が重く、成長する過程でだんだんと重力に対して体のバランスが取れてくると言われています。そのため、高いところから転落した場合は、頭から落ちることが多く、転落時には「頭を打っていないか」「意識状態に問題がないか」をいち早く確認する必要があります。手足の力が強くなったり、寝返りができるようになるとベッドや椅子などから転落しやすくなるので目を離さないようにすることも大切です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 意識がもうろうとしている
- ☐ 打ったところに腫れや出血がある
- ☐ 身長の高さの2-3倍の高さからの転落
- ☐ 嘔吐や頭痛を繰り返す
- ☐ 首の後ろをさわると痛がる



観察のポイント



どのように打ったのか？
意識はあるか？いつもと違う手足の動きなどがないか？速やかに確認しましょう



嘔吐や頭痛、耳からの出血や頭の変形や傷・大きなコブがないか観察しましょう



こんな時は**119番** 
けいれんした・手足で動きにくいところがある など

ご自宅での対処方法

- けがをしてから、24時間はできるだけ安静（お風呂は控え体拭き・室内遊びでゆっくり）にして、48時間は症状が出ないかしっかり経過観察しましょう。
- 吐き気や嘔吐を繰り返す・頭痛の悪化・会話の内容が混乱など、変わった様子があれば夜間であっても早めに受診することを検討しましょう。
また意識が戻らずぐったり・けいれん / ひきつけ・元気がなくすぐ眠ってしまう場合は**119番通報も検討**しましょう。

----> 誤飲した



誤飲とは

子どもの誤飲(ごいん)で多いものは、タバコ、洗剤などの液体、おもちゃなどの固形物、薬など様々です。乳児期の赤ちゃん(1才未満)は、手に持ったものを口に運ぶ、入れるといった特徴があるため、周囲に誤飲してはいけないものは置いておかないよう注意しましょう。

誤飲した場合、窒息する恐れがあるため対処法も知っておきましょう。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ ぐずりが続く
- ☐ 咳が続いている
- ☐ 嘔吐や吐き気がある
- ☐ 頭痛や腹痛がある
- ☐ 発熱している



注意するポイント



磁石を2個以上飲み込むと、腸に穴が空く可能性があるので注意しましょう



毒性が強いもの(タバコや洗剤、薬など)に関しては症状がなくても、受診しましょう



こんな時は**119番**



ぐったりしている・息が苦しそう・顔色が悪い・めまいがある など

ご自宅での対処方法

- 誤飲したものの性状や成分、量は受診した際の重要な情報となるため、まずは誤飲したものの残りを保管する、写真に撮っておく、メモをするなどで状況を確認しましょう。症状が出ていないかをしっかり観察しましょう。
- タバコの誤飲は、ニコチンが水と混ざると体に吸収されやすくなり、中毒症状が急速に悪化する可能性があります。そのため何も飲ませず、すぐに受診しましょう。
- 子どもが喉に物を詰まらせて呼吸ができないときは、まず顔色と呼吸を確認します。乳児は背中を叩き胸を軽く圧迫し、幼児は腹部を押し上げます。それでも取れないときや呼吸ができないときはすぐに119番に通報しましょう。





鼻血について

子どもの鼻血は、けがによるものとかぜや鼻炎などの影響によるもので分かれることが多いです。鼻血が見られた場合は、正しい止血方法を行えば止まることが多いため、慌てずに対応しましょう。しかし、けがによる鼻血の場合は鼻が曲がっていたり、鼻自体に異常が見られたりする場合は、強く圧迫しない場合もあることを覚えておきましょう。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 鼻のけがで頭痛や目の周囲の痛みがある
- ☐ 圧迫しても30分以上出血が続いている
- ☐ コップ1杯(100cc)以上の出血量が確認された
- ☐ 目の周りが腫れている



観察のポイント



鼻に傷がないか？出血の持続時間や出血量を観察しましょう



かぜや鼻炎で粘膜が弱くなっている場合は、鼻血が出やすいため、まず鼻をつまんで圧迫止血を行いましょう



こんな時は119番



鼻のけが後に、息がしづらい・しゃべりにくい・吐き気や嘔吐がある
意識もうろう・目の見え方が違う・様子が普段と違う など

ご自宅での対処方法

- 止血方法：小鼻を指でつまむようにしっかり押さえ、前かがみの姿勢で安静にします。血を多く飲み込むと吐き気を起こすことがあるため、血は飲み込まずに吐き出すようにします。20～30分ほど、冷やしながら圧迫を続けましょう。
- 鼻血が止まった後も、鼻を触りすぎたり強くかんだりすると再び出血しやすくなります。安静に過ごし、もし再び鼻血が出た場合は、もう一度鼻をつまんで圧迫止血を行いましょう。鼻血を繰り返すようであれば、耳鼻科を受診してください。



やけどとは

やけどとは、熱（火・熱湯・蒸気・ストーブ・アイロンなど）、化学物質（洗剤、薬品など）・電気（感電による損傷）・放射線（紫外線（日焼け）、放射線治療など）によって皮膚や体の組織が傷つくことを指します。また、高温でないもの（カイロなど）に長時間触れ続けることで起こる低温やけどもあります。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 痛みが強い
 - ☐ 腫れがひどい
 - ☐ 範囲は体の面積の10%以下だが、水ぶくれがある。または頭部・顔面・陰部にやけどがある
 - ☐ やけどの部位が白く痛みがない
- 子どもの手のひらが約1%の体積として考える



観察のポイント



皮膚の状態、

赤み、水ぶくれ、めくれているかなど…

やけどの範囲を確認しましょう



皮膚の症状だけでなく、意識や呼吸の状態も観察しましょう



こんな時は119番



呼吸が苦しい・意識もうろう・やけどの範囲が体の面積の10%以上・化学薬品・雷・火事などの熱風 など

ご自宅での対処方法

- すぐに流水で冷やします。やけどしたところに直接水が当たらないようにして20～30分冷やします。
- 目や鼻、口まわり等、水で冷やせないところは、保冷剤を当てたり少し外したりしながら20～30分冷やします。水ぶくれはできるだけつぶさないようにしましょう。また、保冷剤は当てっぱなしにしないよう注意しましょう。
- 服の上から熱いものがかかるなどしてやけどした場合は、服の上から水をかけて冷やしてから服を脱がせましょう。水で冷やしても服が皮膚に張りついてはがれない時は無理にはがさず、そのままの状態でも医療機関へ受診をしましょう。

--->動物に咬（噛）まれた



咬傷(こうしょう)とは

動物は、相手を攻撃するために咬むので、えぐれた傷になりがちです。蛇では毒があることもあります。また、動物は、土の中にあるものを口にくわえることがあるので、口内に土の中にいる菌がいて、咬み傷から菌が入ることもあります。全身状態にも影響することがあるので、十分に洗ってからすぐに受診するようにしましょう。

すぐに病院へ行きましょう

かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

☐ ドキドキする(脈が速い)

☐ 傷が赤い・腫れてくる

☐ 傷が痛む・痛みが増す

☐ 咬まれてから、発熱する



観察のポイント



呼吸の状態など、全身状態も確認しましょう



咬んだ動物の種類や状態（飼い犬？野良犬？など）も確認しておきましょう



こんな時は**119番**



呼吸が苦しい・意識もうろう・大量出血 など

ご自宅での対処方法

- 石鹸と流水で十分に傷を洗い、流水で15分以上洗い流しましょう。その後、母子手帳（ワクチン接種を確認）を持参して受診しましょう。
- どうしてもすぐに受診ができない場合は、流水で洗い流した後保冷剤などで咬まれたところを冷やし翌日には受診することをお勧めします。
- 一見大したことがないように見える傷でも、菌が体内に入ったり咬まれたところが後から腫れたり、長引くことがあるのですぐに受診しましょう。



その他

泣き止まない



泣き止まないことについて

赤ちゃんが泣き止まなくても、問題ではありません。誰かが悪いわけでもありません。もし泣き止まないことでイライラしそうになったときは、赤ちゃんを安全な場所に寝かせ、その場を離れてひと呼吸おき、自分をリラックスさせましょう。少ししたら戻って赤ちゃんの様子を確認しましょう。泣き止ませようと急いで強く揺さぶることは、絶対に避けてください。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 顔色が悪い。母乳・ミルクを飲まない
- ☐ 腹部などどこか触ると極端に泣く
- ☐ いつもと違う泣き方
- ☐ 時間をおいて時々強く泣く



観察のポイント



0～1歳児では裸にして腫れや締めつけの場所や、だぶくのあと、あざがないか確認しましょう



体温など全身状態の観察をしましょう



こんな時は**119番**



便にたくさんの血やイチゴゼリーの様なものが混ざる など

ご自宅での対処方法

- 赤ちゃんが泣きやまないときは、まず安全を最優先にしましょう。赤ちゃんをベビーベッドや安全な場所に寝かせて、親もひと息つくことが大切です。強く揺さぶることは絶対に避けてください。
- おむつや授乳の状態をチェックし、体調に変化がないか（発熱やぐったりしていないかなど）確認しましょう。
- おくるみで包んであげるなどでも落ちついて泣きやむこともあります。気温に注意しながら試してみましょう。



----→ミルクを飲まない

飲まないとは

赤ちゃんがミルクを飲まない理由はさまざまで、必ずしも異常とは限りません。哺乳瓶や乳首、ミルクの温度や味、姿勢の不安定さなどで飲まないこともあります。また、空腹でない場合や眠い・疲れている場合、げっぷが出ておらずお腹が苦しい場合、成長過程による一時的な飲みムラもみられます。一方で、体調不良が原因の場合は注意が必要です。

ひとつでも当てはまったらすぐに病院へ行きましょう
かかりつけ医または救急医療機関を受診してください

- ☐ 活気がない気がする
- ☐ 吸いつくがすぐに飲まなくなる
- ☐ いつもより飲み方が弱い
- ☐ オムツの濡れる回数が少ない



観察のポイント

-  オムツの濡れる回数やおしっこの量や便の状態を観察しましょう
-  いつもの活気と変わりないか、観察しましょう



こんな時は**119番** 
活気がない・泣き声が弱々しい・全く吸いつかない など

ご自宅での対処方法

- ミルクを飲まないときは無理に飲ませず、哺乳瓶や乳首が合っているかを確認し必要に応じて形やサイズを変更し、少し時間を置いてから再度授乳してみましょう。
- ミルクは人肌程度の温度にし、授乳時は赤ちゃんの頭と体を安定させた姿勢を保ちます。授乳の前後にはげっぷを促してお腹の張りを和らげましょう。
- 便秘が心配な場合は、綿棒浣腸などの処置は医師や助産師に相談してから行うようにしましょう。
- 母子健康手帳の体重曲線に体重の経過を記入して、発育に問題がなければ心配はありません。

よくある相談



家庭内では、やけど・転落・誤飲などの事故が多く発生しています。特に乳幼児は好奇心旺盛で予想外の行動を取るため、目を離したわずかな時間でも事故につながる可能性があります。

#8000にも、「熱い飲み物でやけどをした」「ベッドやソファから落ちた」「葉や異物を飲み込んだ」など、家庭内事故に関する相談が多く寄せられています。こうした事故の多くは、危険な物を手の届かない場所に置くなど、事前の安全対策によって予防することができます。家庭内の環境を見直し、事故防止に努めましょう。

やけど

熱いものを触ってみたい！



熱い飲みものや料理は
テーブルの端に置かない

気になるものは引っ張りたい！



テーブルクロスは
使わない

ピカピカ光るものや
長いコードが気になる！



使用後のヘアアイロン等は
片づける

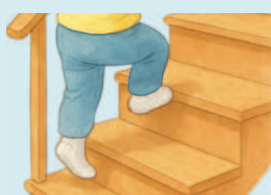
転落

お外が気になっちゃう！



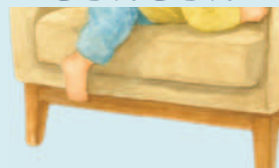
窓の近くに家具を置かない

階段は大冒険！



安全ゲートを設置して
転倒を防ぐ

ちょっとの時間でも、
ごろんごろん！



ソファやベッドなど
高い場所に一人で置かない

誤飲

何でもお口に入れて確かめたい！
ぶにぶに、カラフルな洗剤！これ食べる！



小さなものは、手の届かない場所へ

キラキラ光る、ボタン電池！



飲み込むととても危険！
しっかり片づける

→ 相談窓口について

広島小児救急医療電話相談窓口

夜間の急な病気・けが等について、すぐに医療機関で受診すべきか、様子を見るべきか等判断に迷ったときに相談できる窓口です。

相談員（看護師）が、受診の必要性やご家庭でできる応急処置などを電話でアドバイスします。

子ども（概ね15歳未満）

8000

または 082-555-8870

月～金曜日 19：00～翌8：00

土・日・祝日 17：00～翌8：00

年末年始（12月29日～1月3日）含む

大人（概ね15歳以上）

7119

または 082-246-2000

24時間365日

（設置外：大崎上島町）

中毒110番（公益財団法人日本中毒情報センター）

誤飲や、誤食の急性中毒についての対処方法について相談できます。

つくば中毒110番

☎029-852-9999（365日24時間対応）

大阪中毒110番

☎072-727-2499（365日24時間対応）

たばこ誤飲事故専用電話

☎072-726-9922

（365日24時間対応、※自動音声による情報提供）



→ 欠毛

